

# 大和郡山 防災ニュース 2.4月

このニュースは、市内で防災に関わる住民の皆さんに、動きや情報を提供します。

～電気も備蓄しましょう！～

## 「モバイルバッテリーでスマホ電源の確保を」

今の生活になくはない存在になったスマホ。災害が予測されるとき・発生したときも、LINEでの家族や知人との連絡や国や市からのエリアメールでの地震情報・避難情報・生活情報を得るための重要な手段となります。

ところが、このスマホの弱点は、災害時において停電等で充電ができなくなったとき、1日から数日で内蔵のバッテリーが空になってしまうことです。

このため災害時には、できるだけ電気の消費を少なくするため、家族で通話時刻を決めておいたり、災害用伝言ダイヤル171を活用して、それ以外の不必要な時間では電源を切ったり機内モードにしておくこと方法があります。

しかし、災害による避難が長期にわたるときは、節電してもスマホ本体の充電量だけで乗り切るとは難しいでしょう。

このようなときに備えて、普段からモバイルバッテリーで電気の備蓄をしておくことをお勧めします。また、再充電が難しい状況においては加えて、乾電池式充電器を準備しておけば、電池さえ購入できれば、スマホに充電することができます。



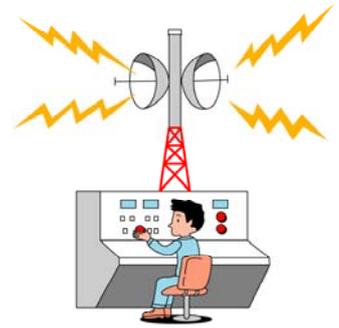
なお、災害時には、携帯電話ネットワークに頼らず安否確認や情報収集ができるよう、被災地域の人々のために「0000JAPAN」という公衆無線LANサービス(公衆Wi-Fi)が無料開放されます。先に紹介した災害用伝言ダイヤル171と共に、いざという時の連絡手段として覚えておきましょう。

## 消防団無線配備が完了しました！

市では、消防団の消火及び防災活動における通信手段を確保するため、無線施設を配備しました。今回配備したのは、生駒山と金剛山に設置された電波塔を通じて通信を行うMCAという無線と携帯電話のデータ通信(IP無線)の2系統を兼ね備えた複合型の送受信機で、市内全域での明瞭な通信が可能となり、また仮に災害発生時に、MCAもしくはIP無線の一方が通信不能となっても他方の無線で通信できるというものです。

このたび、この複合型送受信機を、市役所の基地局及び市内19箇所の各

分団毎に消防ポンプ車の車載局とハンディ局の計2台ずつ配置しました。今回の無線配備により、消防ホースの筒先で放水を担当する団員と消防ポンプ車との連携が取りやすくなり、また消火現場における複数の分団同士の連携を取ることもできます。



さらに、災害時には、消防団が地域の防災力を結集するリーダー的な立場で、現場の状況を市の災害対策本部に伝えて、対策を実行するためのツールとしても期待できます。これに加えて、地域住民のみなさんと消防団との災害時における連携を図り、今回の無線配備がより有効に活用されるよう進めてまいります。

## 継続性のある地域防災を目指して！

大きな災害が起こった直後など一時的に防災への関心が盛り上がり、訓練など開催するのだが、いつの間にか忘れられてしまうことはよくあり、継続性のある地域防災は難しい課題です。市内でも、過去に大きな火災や水害に見舞われた地域では意識が高く、長年防災活動を継続しているところもありますが、多くの地域では持続的な防災活動を行うのに苦労されているよう



です。訓練の際に炊き出しなどお楽しみの部分を取り入れ、地域のコミュニティー活動として定着させようとする努力や工夫をよく見かけますが、他の自治会活動を抱える中、役員さんの負担も大きいようです。そこで提案なのですが、防災活動にお楽しみを組み合わせるのではなく、おまつりなど既存の地域活動に防災を組み合わせるのはいかがでしょうか。例えば、地域の盆踊りの日、会場に来られるときに必ず班ごとに声を掛け合っ

一緒に会場に来ることにおけば、避難時の安否確認や集団避難の訓練にもなります。以前にもご紹介しましたが、お月見会を指定避難所で行って、ぜんざいを炊き出しすることで災害が夜に発生したときの避難訓練になっているという地域もあります。このように他のイベントとの組み合わせや主催者の負担を考えた開催頻度を考慮した活動も必要と存じます。もちろん、私共も自治会等のご依頼に応え、地域の状況に応じた出前講座を行うなど、継続した地域防災活動のお力になりたいと存じておりますので、お気軽にお声がけいただきますようお願いいたします。

ニュースは、**市民安全課、市内の各支所、矢田コミュニティ会館、南部公民館**で配布しています **また、市のHPでもご覧になれます**

大和郡山防災ニュース 🔍 検索

消防団のニュースは、『**大和郡山市消防団へようこそ！**』をご覧ください

大和郡山市消防団へようこそ 🔍 検索

発行人 市役所市民安全課